

# 日本共産党議員団ニュース

【No.570号】日本共産党伊勢原市会議員団 2020年6月11日  
宮脇俊彦 94-7584 Email:jcp.isehara.miyawaki@gmail.com  
川添康大 45-0596 Email:yasuhiro.k120@gmail.com  
事務所 TEL・FAX:93-1169  
HP: <http://isehara.kir.jp/kyou01.html>

6月5日より6月定例議会が始まりました。新型コロナウイルス対策が伊勢原市政でもどう行われるかが問われる大切な議会となります。共産党が要望したことが盛り込まれました。

## 伊勢原市 小規模事業者 臨時交付金10万円支給

伊勢原市は市独自施策として国から支給される「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を活用して1事業者につき10万円を支給する方針を示しました。その概要は以下のとおりです。

1、支給目的：新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、大きな影響を受けている、市内で事業を営む小規模事業者の事業継続を支えるため、国の持続化給付金より支給要件を緩和した市独自の臨時給付金を支給する。

2 実施方式：実施主体は伊勢原市として、国が創設した「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」の活用を見込み、臨時交付金を支給する。

3 支給額：1事業者につき一律10万円

4 支給要件：市内で事業を営む事業者のうち、次に掲げる要件をいずれも満たすものとする。



(1)対象事業者（約1400件）：中小企業基本法等に規定する小規模事業者（対象に医師及び農家も含む、詳細は経済環境部に問い合わせを）

(2) 事業収入の減少率及び減少額

ア 令和2年4月又は5月のいずれか1カ月の事業収入が前年同月比で20%以上50%未満減少しているもの。

イ 事業収入の減少額【（平成31年4月及び令和元年5月の事業収入の合計金額） - （令和2年4月及び5月の事業収入の合計金額）】が10万円以上あるもの。

ウ 令和2年1月から5月までの各月の事業収入が前年同月比で50%以上減少していない（国の持続化給付金の支給対象でない）もの。

5 手続き等

(1) 申請期間：6月22日（月）から7月31日（金）まで

(2) 申請方法：郵送（原則）

(3) 支給等：申請書を受理後、内容審査を経て約2週間後に支給（予定）

## ひとり親家庭等への 臨時特別給付金

新型コロナウイルス感染症の影響により、子育て世帯については、生活全般にわたって大きな負担が生じている。特に児童扶養手当を受給するひとり親家庭を対象に支給するもの。



1 目的 ひとり親家庭等について、子育てと仕事の両面で一般家庭よりも大きな困難が生じていることから、児童扶養手当を受

給するひとり親家庭等を経済的に支援することを目的に、臨時特別の一時金を支給する。



2 事業の位置づけ：市の独自事業。財源は国の「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を活用。

3 支給対象：令和2年5月分の児童扶養手当の受給者 \*全部支給停止者を除く

4 対象児童 児童扶養手当の令和2年5月分の対象となる児童 約470人

5 給付額

(1) 対象児童1人のとき、4万円

(2) 対象児童2人のとき、4万9千円

(3) 対象児童3人以上のとき、上記(2)の金額に3人目以降の対象児童1人につき5千円を加算

6 給付金の申請及び給付の方法

(1) 申請は不要とし、児童扶養手当支給口座に振り込む

(2) 支給日は7月10日(児童扶養手当の7月の支給日と同日)



## その他のコロナ対策独自策

・除菌水の無償配布(詳細は市の広報、又は市のホームページで)

・感染症予防対策用の備品等整備 以上2項目に1200万円

・準要保護世帯に対する支援 528万円

・伊勢原市新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金 9050万円

独自策総額 約2億7500万円

(伊勢原市・新型コロナウイルス感染症緊急対策の全体パッケージより日本共産党伊勢原市会議員団試算)

\*政務調査費削減のため今回の議員団ニュースはモノクロ(白黒)発行としました。

## 財政調整基金を活用して 独自支援策の充実を

伊勢原市のコロナ対策は周辺の厚木市・秦野市・平塚市などの自治体に比べて独自支援策の策定が遅れました。他市町村は5月に開催された臨時議会までに独自支援策として平塚市12億5000万円、厚木市14億8500万円、秦野市6億3850万円、伊勢原市9050万円、愛川町2億4000万円、大磯町9200万円、二宮町1億5000万円、清川村5730万円、(日本共産党県央議員団ニュース2020年5月27日号より、予算措置が示された施策)となっています。コロナウイルス感染症というかつてない事態が発生した時、自治体が迅速に対策をとることが求められています。6月議会でやっと伊勢原市も対策パッケージを示しました。伊勢原市の対策がスピード感をもって取り組まれるよう日本共産党市会議員団も発言を強めます。

## 田植え進む小稲葉地域

今年も6月になり小稲葉地域でも一気に田植えが進みます。コロナウイルスの感染が心配され、人が集まることができなくなりかつて経験したことのない事態に。しかし、気温も高まり田植えの時期になりました。用水路に水が通り、水田が出来上がり、6・7日に田植えが一気に進みました。水田に大山が逆さに映る光景も見られます。コロナウイルスとの付き合いは長丁場になりそうです。だからこそ、自然の営みに目を向け日々のくらしを大切にしたいと思います。(宮脇)

